

**CSR・環境報告 2012**  
2012年7月発行

**秋田エコプラッシュ株式会社**  
<http://www.ecoplash.co.jp>

# 企業理念・環境方針

## 企業理念

「リサイクル」を通して地球も人も豊かに

- ・廃棄物を有効利用し、資源循環型社会構築に寄与
- ・秋田発のリサイクル製品を全国へ
- ・リサイクル事業を通じた地域貢献

## 環境方針

1. 当会社の事業活動における、ISO14001の要求を満たす環境マネジメントシステムを制定し、確実に実行・維持するために役割と責任を明確にし、循環型社会の構築につながるよう継続的な改善に努めます。
2. 容器包装プラスチックリサイクル業及び成形品製造にかかわる事業活動が、環境に与える影響に配慮し環境汚染の予防に努めます。
3. 環境マネジメントシステムの運用にあたっては、環境側面に関わる環境法令、条例及びその他の要求事項を順守します。
4. 事業活動に伴う環境側面のうち、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的目標の設定を行い、定期的に見直しを行います。
5. この環境方針は、文書化して当会社の為に働く全ての人に教育・訓練を通じて周知徹底し、外部に対しても公表します。

改定：2012年6月15日

## トップメッセージ

当社は、2004年度の経済産業省秋田県北部エコタウン事業として認定され、事業を開始致しました。2006年4月には財団法人容器包装リサイクル協会の再商品化事業者として登録を受け、一般家庭から排出される容器包装プラスチックのリサイクルを推進して参りました。

また当社は、秋田県エコタウン事業としても認定され、秋田県の循環型社会構築の一翼を担うべく、秋田県内の環境政策の推進にも取り組んでおります。

一方、昨今の厳しい経済状況と、容器包装リサイクル制度の変更等により、原材料の確保が厳しい状況となっておりますが、製品成形部門の方は、これまで畦カバー、プランター、軽量U字溝、ガーデンパネル等、販売事業者より依頼を受けて成形した製品を全国各地へ出荷して参りました。最近では、独自の大型成形技術により、雨水貯留槽の製法特許を取得し、社団法人雨水貯留浸透技術協会の認定を受けた製品を全国各地の流入雨水を制御する雨水貯留槽を設置する現場に納入しています。

また、新たに水耕栽培施設用の再生樹脂製架台の成形もスタートし、東日本大震災地域を始め全国各地へ出荷しています。

今後も当社は、地球環境への貢献はもちろんのこと、地域とともに歩んでいき、先進的な取り組みを積極的に行うことで、地域の循環型社会構築と環境保全に寄与していきたいと考えております。

2012年 6月 18日

代表取締役社長 鈴木 茂

## 会社概要

商号	秋田エコプラッシュ株式会社
所在地	秋田県能代市扇田字扇淵11番地1
創立年月日	2004年2月13日
資本金	2億5000万円
代表者	代表取締役社長 鈴木 茂
役員等	専務取締役 本田 大作 取締役 大森 三四郎 取締役 田宮 嘉一 取締役 大河内 保 取締役 山谷 文子 監査役 広幡 信悦 監査役 三富 公雄
従業員数	49人
出資企業	三機工業株式会社 株式会社リサイクルワン 株式会社GCPリサイクルマネジメント 大森建設株式会社 中田建設株式会社 東北電力株式会社
許可	一般廃棄物処理施設設置許可 許可番号 指令山福環-1577 産業廃棄物処理施設設置許可 許可番号 指令山福環-1578 産業廃棄物処分業許可 許可番号 5231233

## アドレス

アクセス	TEL:0185-58-5600 FAX:0185-58-5601 Mail: <a href="mailto:info@ecoplash.co.jp">info@ecoplash.co.jp</a>
------	---

## 沿革

2003年3月	秋田県北部エコタウン計画(「石炭灰のリサイクル事業の事業可能性」)拡充調査
2004年2月13日	秋田エコプラッシュ株式会社設立
2004年4月	平成16年度 経済産業省 エコタウンハード事業補助金申請
2004年10月	平成16年度 経済産業省 エコタウンハード事業補助金承認
2004年10月	秋田県北部エコタウン計画承認
2005年3月	本社工場建設工事着工
2006年3月	本社工場稼働開始
2006年4月	容器包装リサイクル法に基づく再商品化事業者として稼働

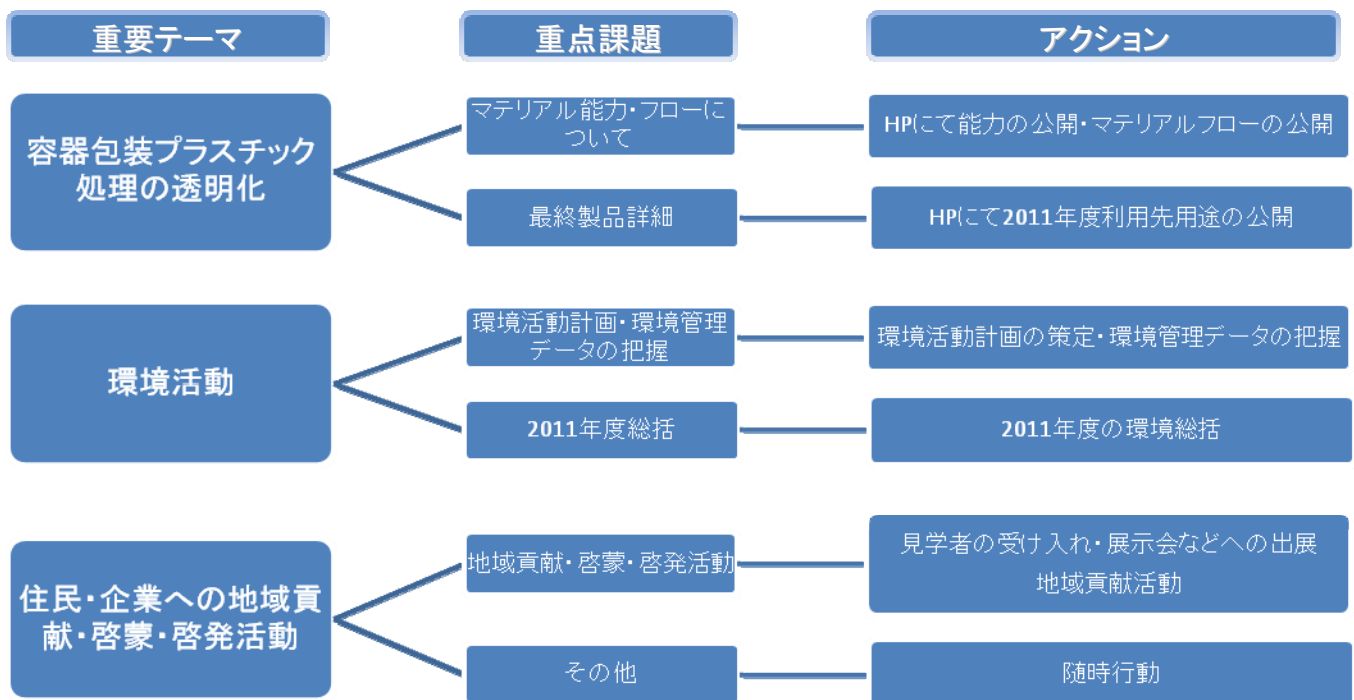
秋田エコプラッシュは地域及び企業の皆様に信頼される企業に成長するために、環境活動・CSR活動を継続・改善し積極的に推進していきます。

CSR活動に向けて

秋田エコプラッシュは、環境方針に基づき、企業が果たす役割を明確化し、実行・維持していくことで、地域及び企業の皆様から信頼される企業に成長すると考えています。そのためには、社員一人一人が成長し、考える力を持ち社員一丸となり、環境活動・CSR活動に取り組んでいきます。

CSR活動の継続に向けて

秋田エコプラッシュは全社員とCSR活動を進めるために、事業推進課を事務局とする「環境・CSR活動委員会」を年に2回開催することとしています。委員会では、啓蒙・啓発活動を考え、実行する計画を主に考えていきます。全社員が考え、行動することで目標に向けての活動をより推進していきます。



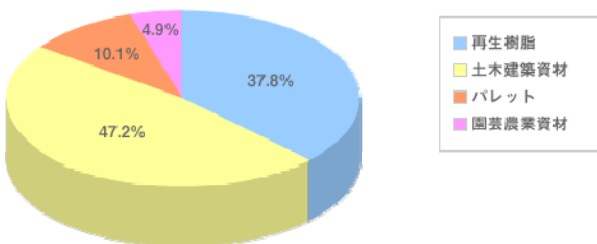


処理能力

施設の種類	破碎施設	設置年月日	2005年9月15日
処理する産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	処理能力	19.2t/日
稼働時間	24時間	処理方式	破碎選別圧縮
構造及び設備の概要	・破碎設備(主電動機75kW) ・PS減容設備(処理能力20kg/h)		

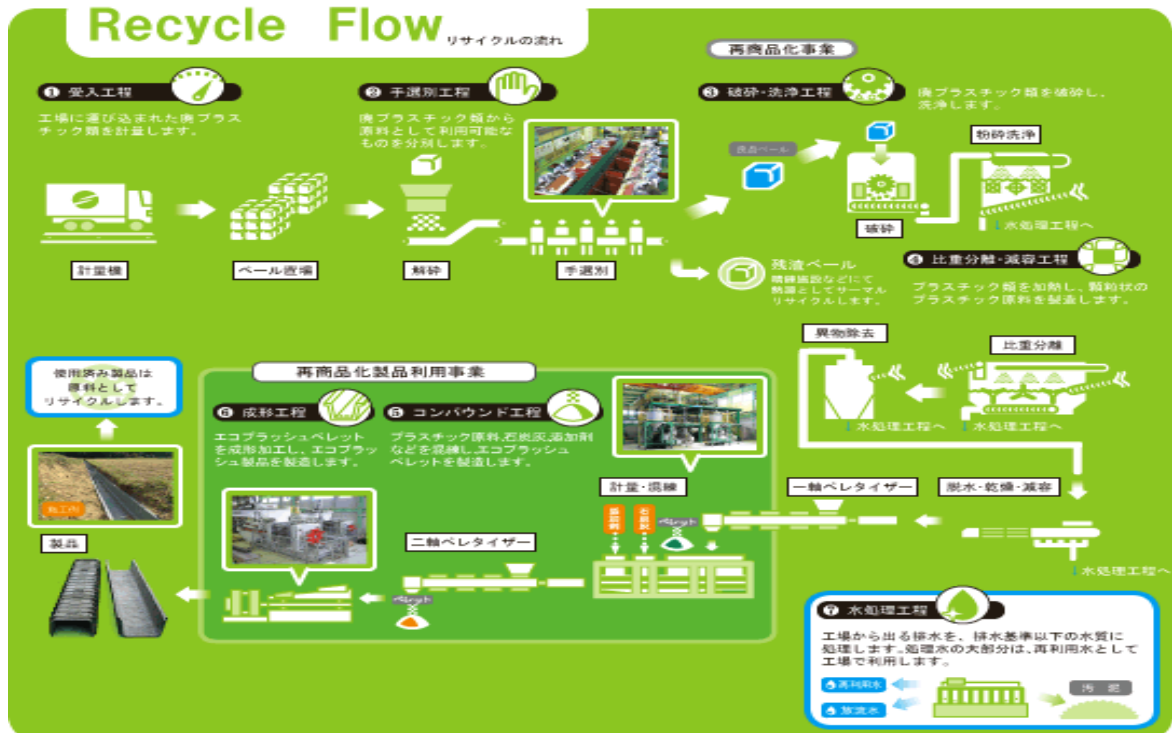
廃棄物の種類、直前1年分の受入量、処分量、再商品化量	廃棄物の種類	廃プラスチック類 ※容器包装リサイクル法に基づく、廃プラスチックに限る
	受入量	4,025t (2011年度実績)
	処分量	4,025t (2011年度実績)
	再商品化量	2,057t (2011年度実績)

平成23年度 再商品化製品比率



- 再生樹脂: コンパウンドペレット(パレット向け)
- 土木建築資材: 雨水貯留槽
- パレット: パレット
- 園芸農業資材: 植木鉢等

リサイクルフロー



## 環境負荷物質の抑制

### 環境活動計画と実績(2011年度)

秋田エコプラッシュでは下記の環境負荷物質の把握、削減を会社全体で取り組んでいます。目標値は2010年度を基準として設定しています。

方針	取り組み項目	活動内容
CO2排出量の削減	LPGガス使用量	フォークリフトのアイドリング抑制・LPG暖房の抑制をする
	電力使用量	事務所等の昼休みの消灯、無駄な電力を削減するために、デマンド計を設置し、使用電力を管理している
排水量の削減	排水量	水処理設備で再利用水として工場へ循環させる
	補給水使用量	
廃棄物の削減	コピー用紙	裏紙の使用を徹底する
社会貢献	環境教育活動	工場見学者を積極的に受け入れ、環境に対する普及啓発に努める

項目	単位	目標値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
LPGガス使用量	kg	1,000	450	530	580	450	435	435	435	1,506	2,384	3,264	3,732	3,441	17,642	1,470
電力使用量	kW	250,000	160,230	245,000	280,700	220,900	236,200	236,900	233,000	247,700	243,500	260,800	313,300	327,100	3,005,330	250,444
補給水使用量	m <sup>3</sup>	700	369	485	485	764	928	974	933	934	444	642	1,103	1,172	9,233	769
排水量	m <sup>3</sup>	600	337	322	458	416	469	456	389	266	226	349	713	978	5,379	448
コピー用紙	枚/月	5,000	4,500	4,000	4,000	5,000	5,000	5,000	5,000	4,500	5,500	5,500	4,000	4,500	56,500	4,708
騒音	dB	60	58	41	50	50	60	53	55	50	53	55	51	53	629	52

### 水質測定データ

項目	単位	目標値	測定値①	測定値②	測定値③	計量方法 規格=JIS K 0102
水素イオン濃度 pH	pH	5.8~8.6以内	7.7	7.6	7.8	規格 12.1
浮遊物質 SS	(mg/l)	200以下	8	5	10	環境庁告示第59号
化学的酸素要求量 COD	(mg/l)	160以下	30	18	34	規格 17
生物化学的酸素要求量 BOD	(mg/l)	60以下	4.5	1.4	14	規格 21及び 32.3
N-ヘキサン抽出物質	(mg/l)	30mg/L未満	5未満	5未満	5未満	環境庁告示第64号
備考	採取日 採取時刻 水温(°C)	5月25日	7月28日	12月14日		
		15:45	13:40	13:52		
		24.5	31.8	14.0		

#### CO2排出量の削減について

昨年と違い、暖房用のLPGガスも数字を把握することにしました。その結果、去年の目標値を大幅に変更しました。目標値に対して数値が大幅に増加したのは、入荷量の増加に伴う稼働体制の変更と例年になく寒い時期が続き、LPGガス使用量が多くなったのが要因でした。また、この結果は電力使用量にも影響しました。この結果を踏まえた上で2012年度の目標値を設定することにしました。

#### 排水量の削減について

補給水の目標は去年に引き続き、未達成に終わりました。要因としては、冬場は活性汚泥の負荷を減らすため、上水を普段より多く使用し、さらに各所の凍結対策をするため使用量の増加につながりました。また、入荷量の増加に伴う稼働体制の変更が大きく起因しました。

排水については、水処理の稼働調整を行い、工場内にて上手に循環できました。

#### 廃棄物の削減について

コピー用紙の削減は達成しました。去年より削減することができたので、継続して行います。委員会で話し合い新たな目標を設定したいと思います。

#### 社会貢献について

見学者を積極的に受け入れることができました。毎年恒例の小学生の社会科見学、県経由での見学者の申し込みがあり、積極的に見学会を実施できました。また、講演会等の依頼も引き受け会社をもっと知ってもらい取り組みも実施できました。受入人数等はHPで公開し、見学の受け入れを推進しています。

## 地域貢献・啓蒙・啓発活動・その他

2011年度は、東京ビッグサイトにて3R展示会に出展しました。容器包装プラスチックを使用した製品の展示及び、容器包装リサイクルの仕組み等を展示しました。新製品である植物工場用架台を展示したところ、農家の方々からたくさんの引き合いをもらい商談に結び付きました。

### 3R展示会への出展の様子



### 社内講習会

2011年度は、フォークリフト講習会を実施しました。内容はフォークリフトの危険性と正しい運転方法についての講習会でした。正しい運転方法と荷卸しに関する技術を上達させることにより社内の運転に関する意識を向上させることができましたと思います。



### 見学会の様子





## 環境関連法規への違反及び全体評価及び見直し

### 環境関連法規の順守

環境関連法規の違反はありませんでした。ISO14001を取得していることもあり社員の順守の意識は高いと思います。また、環境関連の講習会にも社員を積極的に参加させており、意識の向上を常日頃から心がけています。

秋田エコプラッシュは工業団地内の独自規制も順守して今後も公害防止に努めていきます。

### 全体評価及び見直し

昨年度は計画に沿った稼働を心がけ、その中で環境目標を達成しようと会社全体で取り組みました。未達成の項目がいくつかありましたが、受入量増加に伴うものが大きく起因になり、この結果を踏まえて2012年度の目標設定をしたいと思います。

会社としては見学会の積極的な推進、社員の意識向上、地域貢献・啓蒙・啓発活動を積極的に行ってきました。年々、見学者の申し込みが多くなりリサイクルに対する取り組みが評価されていると思います。

環境関連では入荷量増加に伴う、稼働体制の変更が大きく起因してLPGガス等の使用量増加につながりました。この結果をもとに委員会で話し合い、2012年度の目標をどうするのか話し合いたいと思います。

2012年度は会社として出来得る限りの取り組みを行い環境配慮を積極的に行う会社として成長していきたいと思います。また、新規製品開発などを通して自社の活動などをより知ってもらう取り組みを行っていききたいと思います。